

発熱のあるお子様へのご家庭での手当てについて

新型コロナウイルス感染症については、ご家庭の皆様はご心配の事と存じます。
体温が 37.5℃以上の発熱があっても、以下の様子ですと、急いで診療機関へ受診する必要が無い場合が多いです。

- ① 活発に動いている、元気
- ② 口唇の乾燥がない、皮膚も乾燥していない
- ③ 食欲がある
- ④ 水分の摂取ができています＝お茶、水等、また市販の経口電解質液や経口電解質液ゼリー等(～薬局で販売しています)を摂取できている
- ⑤ 尿量がいつもと同じ位(回数、排尿量がいつもの1/2以上ある)
- ⑥ 手足は冷たくない

以上の様な状態であれば、以後の水分摂取に努め、発熱があれば氷枕や氷をいれたパックで冷やしてください(右の脇の下、鼠蹊部等)。手足は温めてください。

また、ご自宅に解熱剤があれば～カロナール、アンヒバ坐剤等(アセトアミノフェン製剤)をご利用ください。

尚、お子様に基礎疾患のある方や、以前に熱性けいれんの経験のある方は主治医とご相談ください。